

【関東学院】リポジトリ運用における負荷の軽減への取組み

2008/06/12

関東学院の機関リポジトリ運用においては、現場の負荷軽減を最優先しており、図書館では情報発信者や業務担当者に支援ツールを提供している。支援ツールを使用することで各処理における登録作業量の軽減が行われ、作業の分散も可能になった。

(1) 納品データからの一括登録（電子紀要の受入れ）

紀要論文データは冊子体の各学部紀要が納品される際に印刷業者から提供される。各論文はPDFファイル、目次情報はエクセルファイルでの提供を標準としている。提供された目次情報に図書館で追加項目を付与し、書誌変換ツールを使用して登録用の仮書誌を自動生成する。生成された仮書誌は論文（PDF ファイル）と共にサーバに一括送信される。

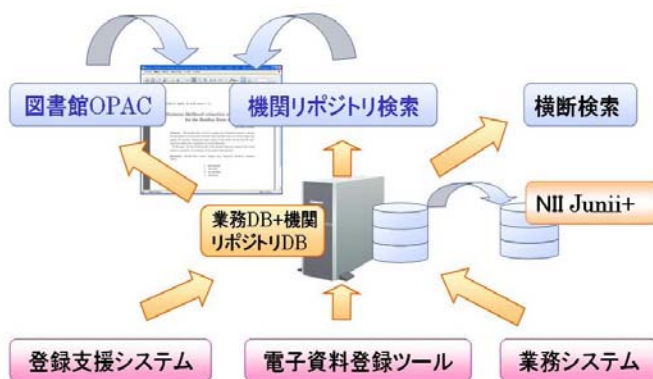
(2) 図書館業務システムとの連携機能（図書館業務の支援）

サーバ上に登録された仮書誌は、図書館業務システムの目録機能を使用して、担当者によりデータ保守作業が行われる。図書館業務システムの所蔵データベースと機関リポジトリのデータベースを一元管理できるよう、機能の追加をした成果である。

一元管理のために、図書館業務システムに Dublincore (Junii2) 準拠でメタデータ用の書誌規則を追加し、目録担当者全員がメタ書誌を保守できる環境を準備した。これによって機関リポジトリのために特定の要員を確保する必要がなくなった。作業の分散が可能となり、目録処理と同じ画面での保守が可能となったことで、図書館員の作業負荷軽減（支援機能）として評価されている。

(3) 蔵書検索システムと機関リポジトリの連携（利用者サービス）

本学では機関リポジトリの利用促進と利用者の利便性のために、蔵書検索システム（OPAC）から機関リポジトリに登録されている論文資料を検索することを可能にした。検索対象となるデータは、電子紀要書誌、巻号書誌、メタ書誌である。検索結果として表示されるメタ書誌詳細画面からは原文データ、巻号書誌からは表紙画像へのリンクが設定されている。



機関リポジトリで提供する検索機能（電子資料検索）においては本文データを対象とした検索が可能である。従来の電子図書館の機能である文脈表示や電子資料の表紙一覧表示も提供している。原文データの公開におい

ては資料の性質、著者の許諾により、学内・学外など公開範囲の制限を付加した管理を行っている。

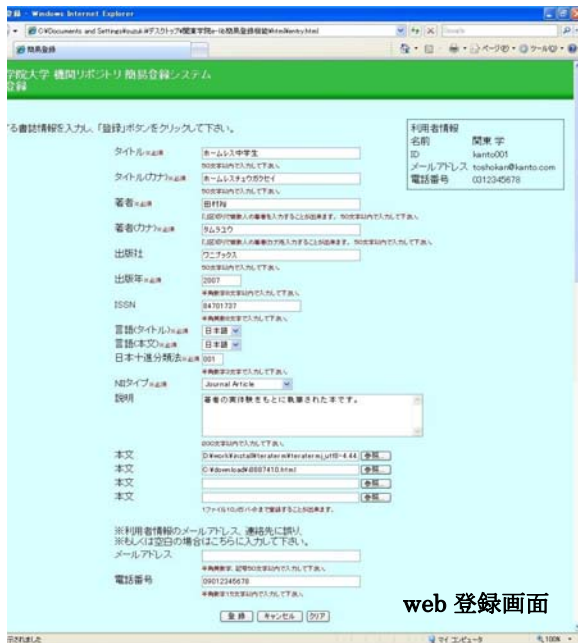
連携するOPAC蔵書検索結果からメタ資料が参照され、原文が閲覧されるケース、横断検索の結果画面から本学の機関リポジトリに連携して本文閲覧に至るケースなど、利用者が本文に至るいくつかの経路がサーバ間のアクセスログで確認されている。

最近では多くの検索サイトがロボット機能などを用いて情報を収集しているため、国内・海外のサイトやGoogleなどの検索サイトから原文に到達するケースも確認されている。

(4) 新データ登録支援機能

機関リポジトリへの科研費報告書、学位論文の登録などによって大学からの情報発信を行おうとすると新たに業務が発生する。こうした状況に対応する支援が求められる。

従来のシステムで論文単体の登録を行う場合、専用端末から個別に登録処理を行う必要があった。



迅速に資料公開を行うために、担当部署、研究者、大学院生がインターネットから資料の簡易登録を行う機能を開発した。この機能を利用することで、研究者・院生・担当部署の職員が簡易な操作でリポジトリへの登録を行うことが可能となる。簡易登録画面では操作性を重視した設計を行い、多くの項目がプルダウンからの選択で入力可能である。また、追加ボタンをクリックする事で項目数を増やすことができる。PDF ファイル等の本文ファイルを参照によってリンク登録する機能が提供され、入力項目を基にした仮書誌も同時に登録される。登録受付メールは登録者と管理者に自動発信される。

簡易登録システムでは web 環境からの論文登録に際して利用者認証を必須とした。現在、認証機能については図書館業務システムと連動している。これにより登録対象者の制限は、図書館業務システム上で利用者の権限をコントロールすることで可能となる。登録者を教員に限定するなどの制限も可能である。

今後はユーザが作成した仮登録データをサーバ間連携により、リポジトリサーバ上に登録する追加機能を開発予定である。これは管理者の業務負荷軽減に対する配慮である。

簡易登録システムのイメージ図

